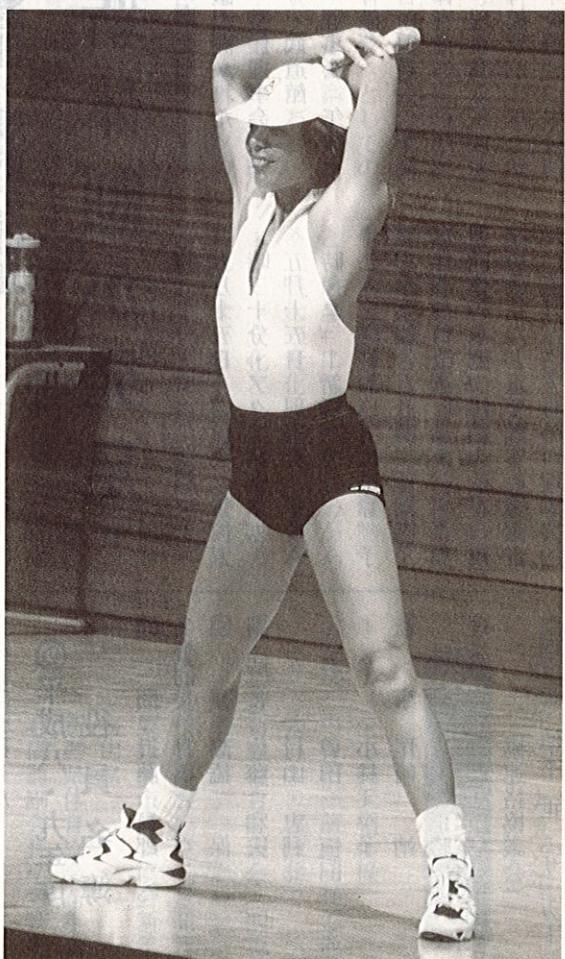
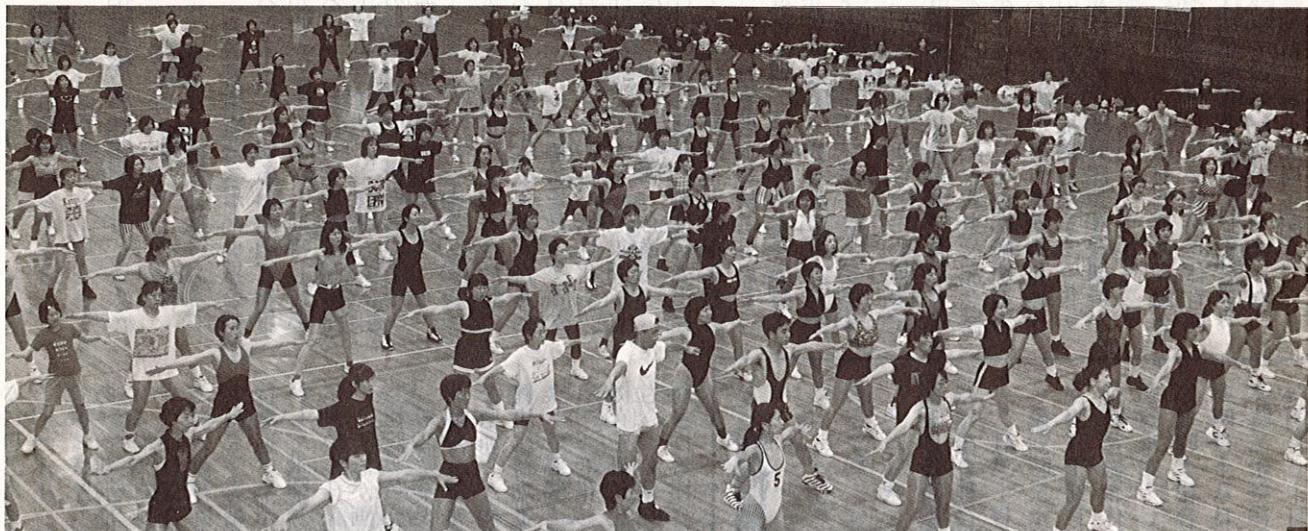


柏崎体育

発行所 柏崎体育団

編集者 近藤康信

印刷所 株柏崎インサツ



総合体育馆が開館したのが平成三年四月一日。満五周年を記念してのイベント、'96エアロビクスフェスティバルが六月一日(土)午後一時半からメインアリーナで開かれた。講師はトータルフィットネスコーディネーターの中尾和子さん。巧な話術で健康保持・管理をわかりやすく語りかけ、続いてのレッスンでは第一回ミス日本ボディビルコンテスト・チャンピオンの姿態がフルに躍動してその魅力をを見せつけた。二〇〇人の参加者も汗と笑顔の三時間。記念写真もつて満足の表情でした。

- ・ 国際交流事業
- ・ 障害者交流事業
- ・ 東村山交流事業
- ・ 75周年記念事業への取り組み

- ・ 競技スポーツの振興
- ・ 競技力向上ジュニア対策事業
- ・ 優秀チーム招聘事業、大会補助
- ・ コーチングサミット
- ・ スポーツ医学の推進
- ・ 指導者の養成事業とその活用
- ・ スポーツ教室、クラブの育成
- ・ スポーツレクリエーション祭
- ・ 市民スポーツ振興基金達成への努力
- ・ 全組織協力体制つくり
- ・ 市民への周知協力
- ・ 個人会員募集

- 三、財政基盤の確立
- ・ ポーツの推進や競技水準向上
- ・ 事業充実のための、恒久的活動財源の確保に努める。
- 二、優秀競技人の育成
- ・ 体育と地域スポーツの連携により、民間指導力を駆使した学社一体の指導組織の強化を図り、県、全国で活躍できる優秀選手の育成に努める。
- 一、生涯

◎事業計画

平成8年度柏崎体育団一般会計予算

(単位:千円)

項目	本年度予算	前年度予算	比較増減	摘要
1. 負担金	760	720	40	20,000×38団体
2. 繰入金	1,500	2,000	△500	賛助会会計から
3. 補助金	2,000	2,000	0	柏崎市から
4. 委託料	440	440	0	柏崎市から
5. 諸収入	10	10	0	預金利子等
6. 繰越金	1,696	1,031	665	7年度繰越金
計	6,406	6,201	205	

支出の部

項目	本年度予算	前年度予算	比較増減	摘要
◎総務費	1,291	1,371	△80	
1. 負担金	51	51	0	県体育協会加盟金
2. 会議費	160	260	△100	新春懇親会ほか諸会議
3. 涉外費	100	50	50	祝儀、広告料、慶弔費
4. 給料等	650	650	0	事務局員1名の給料、手当
5. 旅費	60	60	0	
6. 消耗品費	80	100	△20	事務用品
7. 印刷費	40	40	0	
8. 通信費	120	110	10	
9. 貸借料	30	50	△20	
◎選手強化費	3,300	3,300	0	
1. 大会費	150	150	0	北陸バスケットボール大会等
2. 表彰費	350	350	0	優秀体育人表彰
3. 振興強化費	2,000	2,000	0	競技水準向上、スポーツ振興事業
4. 研修費	600	600	0	コーチングサミット、研修事業
5. 全国出場費	200	200	0	大会出場激励費 1人3,000
◎スポーツ振興費	1,160	990	170	
1. 専門活動費	120	100	20	
2. 市民体育費	340	340	0	各種市民スポーツ大会
3. スポーツ少年団	100	100	0	スポーツ少年団育成費
4. 交流事業費	500	400	100	東村山市、国際等交流会
5. イベント助成金	100	50	50	バスケットボール日本リーグ柏崎大会
◎広報費	400	350	50	
柏崎体育発行費	400	350	50	年間3回(市内全戸配布1回)
◎75周年事業費	—	100	100	
事業費積立金	—	100	100	9年に75周年記念事業予定
◎予備費	155	190	△35	
予備費	155	190	△35	
計	6,406	6,201	205	

◎役員選出内規

規約第四章の役員の選出に伴い次の内規を定める。

一、第十二条常任理事の数は、学識経験により任命された理事全員を含み、十五名以内とする。

二、第十三条(2)の、団長が理事會にはかり学識経験者としてする。監事を兼ねることはできない。

三、団長、副団長及び理事は、六名以内とする。

四月一日付市役所人事異動で、(前体育係長)戸沢高雄氏(総合体育館館長)矢島秀三氏(アーバーク館長)が就任、又体操課長に渡辺仁氏(前全補佐)が昇任、体育団事務局長となつた。次長に補佐の野村信一氏

育課職員が事務局員として団事務を担当。杵渕前体育課長は監査委員事務局長に栄転された。

新事務局長に渡辺体育課長就任

『スポーツの隆盛は、地域の活性化に比例する』

II 加盟団体長会議を開催!!

「来たるべき世紀に向けて柏崎の体育・スポーツは、どうあるべきか。ふたたび、体育・スポーツのユートピア都市柏崎をめざして!」

六月六日、県民体育の日に、

傘下三十八団体の会長会議が行なわれた。会議はコーディネーター山田明彦氏(柏崎日報社社長)により、それぞれがかかれ、強い柏崎の復活と市民スポーツの振興について、熱っぽい語り合いが展開された。

○温故知新—過去の強さの背景

・市民体育の要(かなめ)としての体育団の存在感や使命感を

当然として、その使命の全うに

努める指導者を得た。結果、傘

下団体は、団の運営については、

全面的依存し、団体の選手養成

に専念でき、それなりの成績を

あげた。が、生涯スポーツの振

興等、活動内容の多様化、高度

化が進むにつれ、組織の指導力

に限界と改革が必要となつた。

○復活1各団体の取り組みは?

・(陸協)かつては全国レベル

の選手や覇者が数多くいた。今、

その復活を目指し、底辺の拡大

にジュニア教室を開催すると共

に技術講習等によりチャンピ

オン選手の養成に懸命である。

○ソフト面の充実

少年を育てるここと教室を開いて十年経過(毎年百名を越える参加)、ジュニアの成長が頼もしい。指導者は実プレーを通しての研究と子どもの理解者であること、先見性と創造性が欲しい期でないか。

・(サッカー)スポーツ好きの

・(バスケット)市民の関心は見るスポーツの充実にある。

・(野球)甲子園野球や高校駅

伝に見られる様に、スポーツの

隆盛と地域の活性化は比例する。

・(陸上)甲子園陸上や高校駅

伝に見られる様に、スポーツの

隆盛と地域の活性化は比例する。

・(卓球)甲子園卓球や高校駅

伝に見られる様に、スポーツの

隆盛と地域の活性化は比例する。

・(バドミントン)地域の活性化

が、地域の眼を開く結果となつた。柏崎の地域環境を生かした

その建設精神を貫かれた坂田四郎吉さん、そして、その理解者であり、本団の創始者である洲崎義郎氏、また、優秀競技人の育成に盡力された島掛藤治郎先生の体育に懸けられた「情熱」と「信念」に学ぶべきものがある。時代の変化は、新たな体育と「信念」に学ぶべきものがあ

あしあと

平成八年(一九九六年)

1・1 全市民元朝体操

18 中村昭三前副團長ご逝去(2・17社葬)

19 新春体育懇親会(四百名参加)

21 東村山市体育協会新年会出席

22 柏崎体育一二二二号発行

23 石橋前副會長功勞賞受賞

24 原喜彦(レスリングオリンピック日本代表選手)氏のメッセージ

25 優秀体育人表彰式

26 原喜彦(レスリングオリンピック日本代表選手)氏のメッセージ

27 常任理事会

28 理事会

29 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

30 理事会

31 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

32 常任理事会

33 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

34 常任理事会

35 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

36 常任理事会

37 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

38 常任理事会

39 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

40 常任理事会

41 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

42 常任理事会

43 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

44 常任理事会

45 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

46 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

47 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

48 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

49 委員会事業反省、新年度役員改選、予算案

東村山—柏崎友好
タスキリレー完走

(中鱗石地区体協)

会計監査

理事会—新役員選出

委員会—規約一部改正

「専門部会」(全理事)

常任理事会—新年度事

業基本事項打合せ

加盟団体長会議

44回北陸バスケットボ

ール大会準備会発足

車」参加

中鱗石地区体協では、地区走

ろう会を中心十三名が、六月

二十八日~三十日にかけて、東

村市役所スタートで中鱗石コ

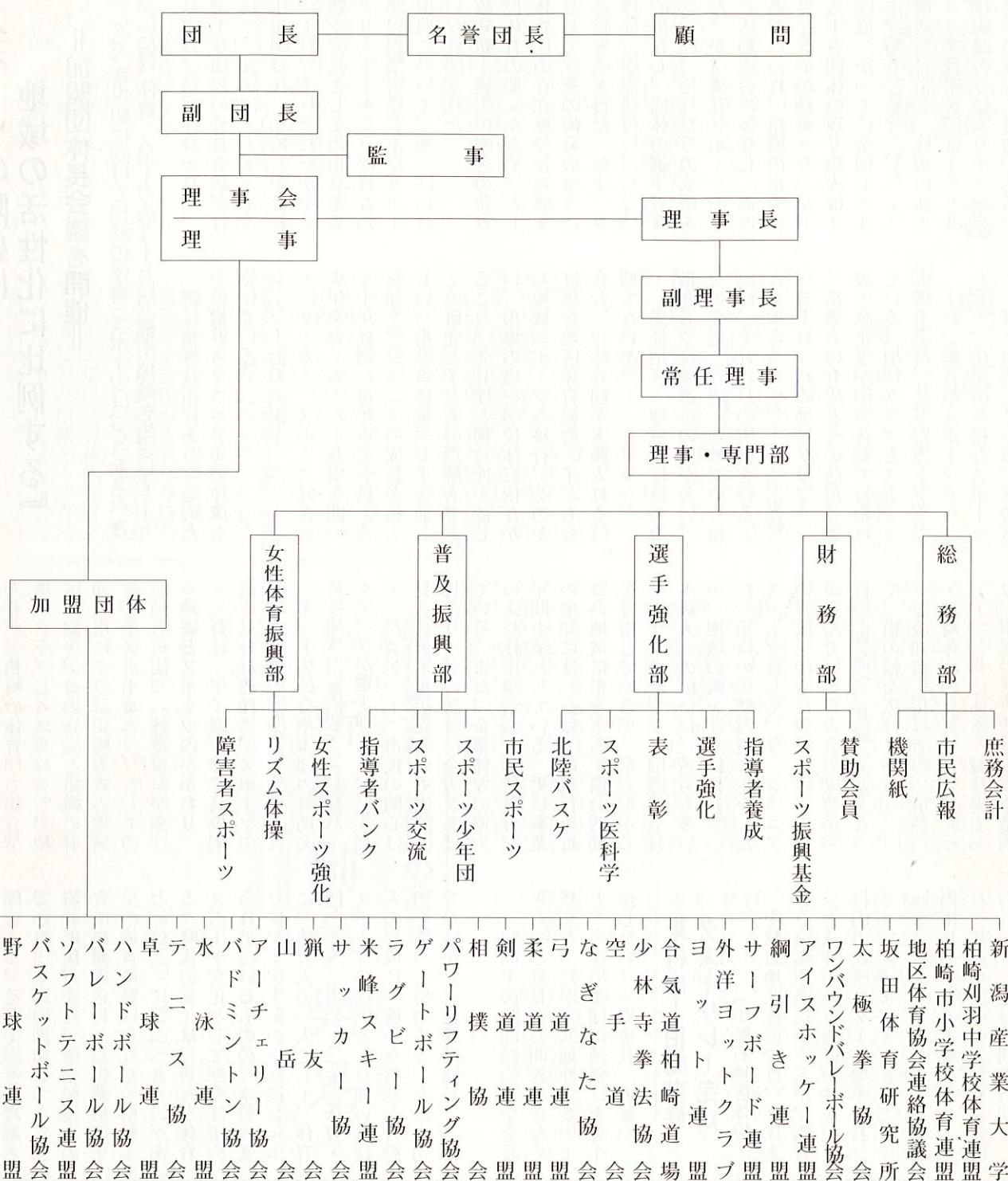
ミュニティセンターまで二五八

kmをタスキリレーした。その際、

両市長のマッセージもリレーされ、住民サイドの友好親善が図られた。(走行時間20時間)

〔柏崎体育団組織図〕

— H 8. 4. 1 現在 —



▼鶴川に新スキー場建設の計画がみえてきた。それに対しても然保護と経営不安の両面で異論が出て、柏崎日報紙上の投書欄をにぎわしている。スキー場建設にはこれまで長い年月にわたって検討されて来た経過もあるが、この時代においての対応の仕方は、より一層各方面の意見を聞きながらしっかりと噛み合わせを図らねばなるまい▼飲んで元気の出るのは当たり前のこと。しかし体育団でござおんのみこしを出そうとはメビックリ仰天。「ハッピは俺が持つ」「費用は俺が集める」「材木は俺も出す」となれば酒の上の話というわけに行かない。もはや後へは引けぬ。事務局は二十年前のスポーツハウスで出場した「トランボリンの山車」を思い出しつつ、楽しさと切なさのはざまで四苦八苦の準備が始まった。**「勢い**とはこうゆうものか。▼東村山とのスポーツ交流20周年を機に交流が市同志の姉妹提掲に発展した。民間交流がきっかけで発展することは、今の時代としては理想的な事象といえよう。

(佐藤)